

福原会長、ザッパ会長、ウルソ副大臣、岡田局長、ヴァッターニ会長、そしてご列席の皆様、本日この席で発言の機会をいただいたことを心より感謝申し上げます。今日のこの会合では日本とイタリアの経済交流のさらなる発展の方法が議論されると承知いたしますが、皆様方の尽力により両国の経済的絆がより一層強化されることを願っております。ただ私から一だけ強調させていただきたいことは経済交流の根底にあります両国国民の相互理解の増進の必要性であります。先程来、ザッパ会長あるいはウルソ副大臣からもこの点についてお話があったところでございます。ご案内のとおり本年は「2007年イタリアの春」に続き、「イタリアの秋」が行われており、日本各地でイタリアを紹介する様々なイベントが開催されます。このように日本においてイタリアを紹介する大型行事が近年数多く実施されている一方で、イタリアにおいては1995年から96年にかけて「イタリアにおける日本年」が実施されて以来、日本を紹介する大型行事が実施されていないというのが実情であります。このようなアンバランスな現実を受けて、イタリアの官民の皆様からは是非イタリアにおいて日本を紹介する大型行事を実施して欲しいという要望をいただいているところです。イタリアにおいて日本の文化に対する理解が進めば進むほど、日伊の経済交流も進むと考えます。従って、在イタリア大使館としましては本年から来年、再来年にかけて、様々な文化行事を企画しております。本年7月にはローマ市内を流れるテベレ川の中州の島であるテベレーナ島において、「ジャパン・イタリー」という交流文化行事を実施したのもその一つであります。この「ジャパン・イタリー」において日本映画の上映やハワイ大使のファッションショーなど、ポップカルチャーの紹介、あるいは日本食、日本酒の紹介などを実施いたしました。開会式には麻生総理、ローマ市長、ジーク文化財にもご列席を賜りました。今後も独創的な企画をいくつか考えていきたいと思っております。ちなみに中国はイタリアとの経済交流の効果に大変力を入れておまして、本年7月には胡錦濤主席のG8サミット出席の際に大型の経営者ミッションの派遣を致しましたが、これに呼応する形で中国の文化紹介にも力を入れておまして、2010年には「イタリアにおける中国年」を開催する予定という風に聞いております。

そこで私としましては、来年イタリアにおいてJIBGミーティングが開催されるにつかまして、日本を紹介する行事を実施すること、そしてミを含めまして今後の文化行事の文化交流のあり方について、日伊両国関係者による検討委員会を設置することは一つのアイデアではないかと思ひまして、ここに提案させていただく次第でございます。この委員会は必ずしもスポンサーを求めるものではありません。経済界の立場から今後の文化交流のあり方について意見を出していただければと存じます。どうかこのような検討委員会の設置について本日もご検討をいただければ幸いです。「2007年のイタリアの春」も本年の「イタリアの秋」もイタリアのみならず日本の様々な企業の中から有形無形の様々な支援をいただいていると同っております。日本からイタリアへ向けての文化紹介の流れについても同様の支援をいただきたいと思います。以上よろしくお願ひ申し上げます。終わりにあたりまして、本日のこの会合の成功を心より祈念いたします。どうもありがとうございました。